

—社会福祉法人阜仁会— 特別養護老人ホーム けやきの里 あやめ館

〒270-1173 我孫子市青山415
TEL.04-7181-1110



- 定員
特養100床
(ユニット型70床・従来型30床)
ショートステイ20床
(ユニット型10床・従来型10床)
- アクセス
電車でお越しの方
JR常磐線「天王台」駅下車 徒歩20分
バスでお越しの方
JR天王台駅から坂東バスあり 約10分



施設長 吉田光成氏

我孫子聖仁会病院の隣に3月、新特養 医療との一体ケアで入居生活に安心感

社会の高齢化と共に、特別養護老人ホーム利用者の平均要介護度は直近約20年間で上昇トレンドが続き、2022年度は4・00となった。医療行為の場ではない特養だが、要介護の重度化に対応した医療アクセスの向上は重要テーマ。この課題に向き合い、病院併設の特養運営に実績を持つ社会福祉法人阜仁会が3月、我孫子市青山に「けやきの里あやめ館」を開く。同一敷地内の我孫子聖仁会病院と連携した介護が強みの特養だ。

医療&介護サービスの「集積センター」

JR常磐線天王台駅からバスで10分。特養2棟と我孫子聖仁会病院（二次救急指定）が軒を並べた姿は、医療&介護サービスの「集積センター」と形容するに相応しい。

「けやきの里 あやめ館」はユニット型個室70、従来型多床室30の計100床。東隣の特養「けやきの里」（計100床）とは1階で繋がりに、3つの建物の間は内部で行き来可能。

あやめ館が3棟目の特養となる阜仁会（杉山雅英理事長）は、病院を運営する医療法人社団聖仁会グループに属し、総合病院と特養を併設する形の高齢者施設をつくってきた。あやめ館の施設長となる吉田光成氏（44）も「病院とジョイントした特養である点が、利用者様とご家族、私たち介護スタッフにとってのメリット」と語る。

医療ニーズの高い利用者も受け入れへ

高齢者施設利用者にとっては、要介護度の軽減や悪化防止ができれば理想的。だが、齢を重ねて要介護度が上がり、専門的医療が必要になるケースも少なくない。

特養の入居条件は介護保険認定で「要介護3」以上。だが、公益社団法人全国老人福祉施設協議会の調

査によると、特養利用者の平均要介護度は2003年度の3・00から22年度には4・00に達し、上昇トレンドが続く（※）。また、緊急時対応も利用者には不安材料。こうした状況から、各地の特養は今、医療アクセスの向上という課題に直面する。

この点、あやめ館は我孫子聖仁会病院と建物が繋がりに、24時間365日の医療体制が整う。利用者は普段から手厚い健康管理サービスを享受でき、容態急変時にも遠く離れた敷地内ではなく、住み慣れた敷地内の病院に移れる。隣り合うあやめ館とけやきの里のスタッフ間協力により、利用者への目が届きやすい介護体制が「つくりだされている」。

「透析療法を受けるなど医療ニーズの高い要介護者様の入居もできる限り受け入れたい」と吉田施設長。あやめ館ならではの、病院と特養との一体ケアが利用者にもたらす効用——それは、安心感に裏打ちされた入居生活の享受だ。

利用者を代弁できるほどの関係づくり

リスクマネジメントのレ



▲入居者の日々の食事、交流の場となる共同生活室



▲日の光あふれる開放的な居室

「介護のやり方・方向性は答えがあるようではない。各利用者様で求められるものが違うから。利用者様との人間関係を築いてその代弁者になり、喜ばれるケアを見つけて出す」。福祉の世界で四半世紀、吉田施設長が辿り着いた基本フォームだ。スタッフたちは利用者の表情や言葉からポイントになる所を感じ取り、最適なケアを探っていく。

医療と介護の一体化が整った介護体制をアドバンテージに、あやめ館は我孫子の高齢者の後半生を支える「まほろば」を目指す。

※「介護老人福祉施設等 令和4年度収支状況等調査報告書」（令和6年3月、公益社団法人全国老人福祉施設協議会・老協協総研手とめ）より